

### 夕刊 若城新聞

行發日六十二月五

電話一七三〇日  
電話一七三〇日

## 本社短歌會詠草 (上)

題「風」

(詠草の数字は入漢點數)  
 2〇はのほのとこばれ散れとが一八の、花にすが  
 たをうつし行く風 佐藤清長  
 〇雲漸吹く風そよよと朱藤細、見せしと乙女  
 被取りにける 小野良徳  
 3〇輕氣球流るゝ程の奔風に、さからふ鳥の又巧  
 みなり 大方竹幸  
 1〇涙々と心に足らうこともなく、身老け行く  
 は風にかも似る 佐藤清長  
 〇麥生原風吹き渡り穂波立つ、波の間に蝶  
 の舞ひさよ 小野良徳  
 4〇いさゝかの風に芽柳ゆれくと、抱きし香子  
 の髪ゆび見ゆ 大竹竹幸  
 〇しげはげし通學生の歸る頃、夕暮せまれば母  
 の待ちわぶ 佐々木顯  
 2〇朝風のそよ吹きたる若葉道、繪日傘一つく  
 るくと行く 野本多儀夫  
 7〇藤若葉音なき風に光りくる、朝のひびくさを  
 郭公の啼く 同  
 〇船出して風になれりその妻は、神かけ祈るや  
 すらかであれ 佐々木顯  
 〇天地の若葉さみざりそよよかけて、吹くこの風  
 に我も吹かれつゝ 草野みどり  
 6〇揚け雲雀啼き啼き焼く煙の、そよよ明る  
 き初夏の風 田中賢介  
 1〇みどりさき微風にそよよ襟袖の葉の、かげに  
 咲き出ぬ黄なる花房 草野みどり  
 3〇禿山の炭礦地帯はアカシヤの、青みづみづし  
 はるゝ風霧 田中賢介  
 〇宿醉の頬に快し新川の、櫻若葉を翻る朝風  
 赤井 雄男  
 3〇草も木も葉うらみ見せて物々し、風吹き出で  
 雨來る氣配 同  
 7〇吹く風にゆらぐ牡丹の大輪を、心ゆたかにみ  
 る日となりぬ 小山田 滋  
 2〇往きつゝもしばし思ひく青あらし、園の境の

山深みかも  
 5〇朝戸あけて見のさやけさやまなかの、苗代  
 小田は風のあるらし 同  
 3〇安達太良のこのみねにして目を放つ、下びの  
 雲に風起る見ゆ 同

灯こり蟲  
 舞ふひとの唇紅なり灯こり蟲  
 舞ふひとの襟あしみだれ灯こり蟲  
 灯こり蟲舞ふよりのちのふとかなし  
 灯こり蟲舞ふよりのちのふとかなし  
 舞ひくるふいのはやせて灯こり蟲

春  
 高田 琢朗  
 春だ陽がてる  
 水ぬるむ  
 若葉芽をよき  
 鳥も啼く  
 若葉をよく  
 鳥は啼く  
 空が萌黄に  
 染まれば  
 春だあてても  
 淋しくない  
 しつけさ

影を抱く女  
 山路不二男

私達は幸福になれる……  
 心の裡でさう附け加へ、悦と、前に言つて置いたが、  
 ひに顔を結ばせてみた、  
 善い急げの歌言葉を、地の序曲であつたのだ  
 で行く心算でもあまいが、二人が、養生堂喫茶部へ  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見

高橋是清  
 小 説  
 松浦 泉三郎作  
 佐々木 今朝吉書

猿町から猿町まで、ホ  
 の一またぎの道中も、老  
 婆と少年の足では、容易  
 もものではなかつた。それ  
 二人共、店のありかを知ら



「では白金から……」  
 「あ、その方の事ですか  
 その方なら……」  
 「先のお内儀さんでせう」  
 「先……」  
 「狼狽と、初め解けた謎  
 と、喜代子は、さう言つ  
 たさき、一寸言葉を切つて  
 和喜次を顔を見ました。和  
 喜次は俯向いて、足許を見  
 つめてゐた  
 「え、おきさんと言ひ  
 ましたか」  
 「矢張り微笑を浮かべながら  
 先妻の古い知人でもあらう  
 孫連れの老婆の身振りを、  
 杖かに見て喜代子は  
 「あの、若し何ぞ御用でし  
 たら主人を呼びませうか  
 「い、あの、そして……」  
 喜代子は吃りながら

長部株式会社

電話一七三〇日  
電話一七三〇日

影を抱く女 (続)  
 私達は幸福になれる……  
 心の裡でさう附け加へ、悦と、前に言つて置いたが、  
 ひに顔を結ばせてみた、  
 善い急げの歌言葉を、地の序曲であつたのだ  
 で行く心算でもあまいが、二人が、養生堂喫茶部へ  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見

影を抱く女 (続)  
 私達は幸福になれる……  
 心の裡でさう附け加へ、悦と、前に言つて置いたが、  
 ひに顔を結ばせてみた、  
 善い急げの歌言葉を、地の序曲であつたのだ  
 で行く心算でもあまいが、二人が、養生堂喫茶部へ  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見

影を抱く女 (続)  
 私達は幸福になれる……  
 心の裡でさう附け加へ、悦と、前に言つて置いたが、  
 ひに顔を結ばせてみた、  
 善い急げの歌言葉を、地の序曲であつたのだ  
 で行く心算でもあまいが、二人が、養生堂喫茶部へ  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見  
 顔付きで、文子の後姿を見

流行洋品  
 文字帽  
 パナマ帽子

ツルヤ  
 電話一四〇

良品廉賣に勝る商略なし  
 警城セント特約代理店  
 和洋銅物  
 釜屋商店  
 警城國平町五丁目  
 電話九番 九九番

確實敏捷は父の生命なり

内臓外科一般 (入院隨意)  
 外科花柳病科  
 平町六丁目 (橋際)  
 木村外科醫院  
 電話三〇九

手職ヲ覺ヘラル、  
 雜務員募集  
 年令十五、六才  
 初給四十錢内外年二回昇給アリ  
 平町及附近居住者ニシテ通勤シ  
 得ルモノ  
 一、最初工場ノ雜務ニ従事シ後本人  
 ノ適業ニ廻ス  
 右希望者ハ本人直接工場へ御申込ヲラテ  
 平町 新田 前  
 丸はん家具製作所  
 電話ノ御照會ハ御断リ致シマス

産科 長 木村寅次郎  
 婦人科 醫學博士 内木宗八  
 藥外科 藥劑師 大岩 俊雄

平町新川町十九番地  
 入院隨意 木村病院  
 病室完備 電話一六四番

男、女學生夏服  
 其他漸新及一般夏服特賣  
 高島屋  
 注文並に既製品  
 高島屋洋服店  
 平町三丁目電話三三六番

産科 午後宅診  
 婦人科 午後往診  
 花柳病科 入院應需  
 井坂 醫院  
 平町田町 (元合津醫院跡)  
 電話五五九番

坊やの名前  
 五月青葉のそよと生れた可愛坊や  
 姓名學で名をつけて日毎に太つて丈夫にそ  
 だつ、やがて黄金の波湧き、一生幸福良  
 名の坊や  
 日本姓名學會 沼 孝昌  
 (平町新川町三三)

電話設置披露  
 電話七二二一番  
 日本瓦斯工業株式會社  
 瓦斯製機代理店  
 久野電機  
 福島縣平町新川町五三

電話増設  
 電話七二七番 會長宅用  
 平町大町二〇  
 警城無盡商會  
 電話三七八番

各種 恩給年金の立替  
 一 軍人恩給  
 一 文官恩給  
 一 鐵道年金  
 右低利ニテ立替ノ求ニ應ズ。  
 石城郡植田町字本町二六  
 押田憲一事業部  
 平町古鍛冶町九〇  
 電話一九〇番

初夏の御遊覽  
 須賀川(蛇の花)の牡丹が満開です  
 日歸り遊覽團体を募集致します。  
 期日 五月廿八日午前六時出發  
 會費 一圓五十錢(御一人様自動車御料  
 金)  
 どなたも御申込み下さい。

電話新設  
 電話七一九番  
 平町白銀町  
 御膳 新扇屋そば店  
 生そば

尼子自動車商會  
 遊覽部  
 電話六四〇番

電話設置披露  
 電話七二二一番  
 日本瓦斯工業株式會社  
 瓦斯製機代理店  
 久野電機  
 福島縣平町新川町五三

電話増設  
 電話七二七番 會長宅用  
 平町大町二〇  
 警城無盡商會  
 電話三七八番

各種 恩給年金の立替  
 一 軍人恩給  
 一 文官恩給  
 一 鐵道年金  
 右低利ニテ立替ノ求ニ應ズ。  
 石城郡植田町字本町二六  
 押田憲一事業部  
 平町古鍛冶町九〇  
 電話一九〇番

坊やの名前  
 五月青葉のそよと生れた可愛坊や  
 姓名學で名をつけて日毎に太つて丈夫にそ  
 だつ、やがて黄金の波湧き、一生幸福良  
 名の坊や  
 日本姓名學會 沼 孝昌  
 (平町新川町三三)

